

都市近郊に於ける森林・林業に対する 市民の声 (第2報)

仙台営林署 越後谷 新一郎
長 岐 務

はじめに

最近に於いて 林業を取り巻く諸情勢は、大変厳しいものがあり、そうした中で事業運営をしている国有林野事業も極めて厳しい状況下にあります。近年、国民の森林に対するニーズは多様化しており、従来の「木材生産」・「水資源のかん養」等に加え、森林空間を利用したレクリエーションの場としての活用を求めたり、また「森林は手を加えるべきではない」、「生態系を壊すような伐採は慎むべき」と言った自然保護を主眼とした声も聞かれ、これらの国民の意見を、国有林野事業の中にどう反映させていくかが、今後の重要な課題と考えられます。

この課題についてアンケートにより平成5年度に調査し発表しました。

今回は、その後の国民の意見も事業運営に反映させたいと考え取り組んだので、その結果と今後の課題について発表します。

調査の方法と内容

アンケート調査は平成7年度10月10日から12月22日までの約2か月にわたり、仙台市内の主要箇所位置する勾当台公園等で実施したほか、今回は青森営林局で実施した森林クラブの皆さんの意見・要望等を収集しました。アンケートの項目は前回とほぼ同じです。

調査の項目は、○営林署・国有林野等の知名度、○森林に対する関心度、○自然保護に対する考え、○今後の森林の在り方・利用方法、○国有林野事業に対する要望、の5項目をベースにし、各項目ごとに集計し考案してみました。

調査の結果

1項目の営林署・国有林野等の知名度について、「仙台市に国有林を管理経営している営林署があるのを知っていますか」という問いに対して、「知っている」と答えた人は全体の80%を占めました。これは、前回を上回る数値でした。

しかし年齢別では、30歳未満では10%、30～40歳では20%、40歳以上になると60%以上となっており、年代が高くなるにつれて「知っている」と答えた人の割合は高くなっています。

これは前回とまったく同じで、若年層になるほどポイントが低くなっており、さらに前回より若年層のポイントがダウンしていました。

この結果を見る限り、「国有林のPR」を若年層にマッチさせる方法が必要であり、私自身も地域と密着した取り組みをする事の必要さを痛感しました。

次に2項の森林に対する関心度について、「あなたは森林に対し興味がありますか」と言う問いに対し、「ある」と答えた人は約100%といった結果となりました。

また、「どのようなところに興味がありますか」と聞いたところ、「景観について」が50%、「動植物について」が32%、「レクリエーション施設について」が18%といった回答になりました。これは前回とほぼ変化はありませんでした。

このことから、ほとんどの人が「森林に対して関心がある」ことが前回同様分かり、また関心を示す視点に於いては、個人によって幾分かの差があり、ニーズの多様化が伺い知れます。

次に、3項目の自然保護に対する市民の考えについて、「あなたは自然保護に興味があ

りますか」という問いに対し、「ある」と答えた人は100 %で「ない」・「無回答」は1人もいないといった結果になりました。

また、「どのようなことに興味がありますか」と聞いたところ、70%以上の人々が「動植物を守る事」に、その他「森林の伐採を行わないこと」が16%、「その他」の回答が8%となっています。

その内容から見ると、前回調査とくらべ「森林の伐採」よりも「動植物を守る」ことの方がより高くなっており、以前あった「伐採反対」との考えから少し変化がでてきている。

また、少数意見としては、「開発をしない」・「森の奥まで立派な道路を作らないほしい、誰でも車でどンドン入り、ゴミを捨てて歩かないように」・「従来に増し情報の提供が必要」等、様々な意見がありました。

これらのことから、森林について、できるだけ自然の形で残してほしいというのが市民の声のようです。

次に4項目の今後の森林のあり方、利用方法について「仙台近郊に於ける森林の活用についてあなたならどうしますか」という問いに対し、「森林として維持する」と答えた人が全体の88%を占め、「森林以外の施設敷として利用する」と答えた人は12%となっています。

次に森林の整備について、「森林の機能を高める為には整備することが必要であるが、あなたはその経費の負担に協力を惜しみませんか」という問いに対し、「はい」と答えたのが93%「いいえ」と答えた人が7%という結果になっています。

「森林整備の経費の負担を惜しまない」と答えた人が90%以上のポイントを占めた

ということは、多少の負担をしても「森林を守りたい・大切にしたい」という声の現れであり、今後の参考とすべき点であると考えます。

また木材を供給するといった観点から「森林の伐採についてどう思いますか」という問いに対し、「適性に行われるなら伐採してもよい」と答えた人は85%、「余り感心しない」が9%、「伐採すべきではない」が6%、といった結果になりました。

2年前の調査では、森林の伐採に対して否定的な考えの人が40%占めていました。今回は15%という低いポイントではありますが、このことは今後の国有林野事業を運営していく上で大きな課題であり、さらに国民に広く理解して貰うべくPR活動に勤めることが重要だと分かりました。

さらに、「森林以外の施設として利用するとしては何が良いと思いますか」という問いに対し、「レクリエーションの場」と答えた人が64%、「公共施設」が23%、「その他」が13%といった結果になり、これは前回とほぼ同じでした。

最後の項目として、「国有林野事業」について意見を聞かせて下さい」という問いに対し、回答した人は全体の8%に止まり、前回も10%弱と前回同様残低い回答になりました。

しかし、回答した人の意見・要望などは大変参考になるものが多かったので紹介しておきます。

- 1、国有林野事業のPR不足
- 2、特別会計制度を止めて、一般会計にしたらどうか
- 3、動植物の保護
- 4、収入増の為の土地開発の拡張をやめてほしい

これらの意見・要望は、普段の業務の中で耳にするものの、ややもすると日常業務に追われがちで、実際に取り組む機会が少なくなっていることのあらわれではないでしょうか。

なを、1つ目と2つ目の意見は前回もあったもので、今回も多い意見でした。私自身も大いに反省すべき点であり、大変参考になりました。

以上の5項目についてまとめると、全体的には前回とほぼ同じであることが分かりました。

その中のポイントは何と言っても「国有林野のPR活動」にあると考えます。

それにはまず、職員一人ひとりが所属する営林署を地域の人に知って貰う努力することが先決であり、今までの考えを一新して様々な形でPR活動を展開すべきではないでしょうか。

次に、地域の意見を取り入れながら、国有林野事業の運営に心掛けるべきではないでしょうか。

今回実施したアンケート調査に於いて、私が実感したことは、このような小規模な調査でも周囲の反響は以外に大きく、また地域の人々の素直な意見も多く聞くことが出来、大変参考になりました。

前回同様、是非、この意見・要望などについて少しでも多く事業に反映させたいと考えます。

今後にも前回と今回のアンケート調査をもとに、「森林・林業・国有林のPR活動と国有林野事業運営に対する意見・要望等の収集に努力していく」ことを明らかにして

て、発表を終わります。(御静聴ありがとうございました)

◇ アンケート調査項目 ◇

- ☆ 営林署・国有林野等の知名度
- ☆ 森林に対する関心度
- ☆ 自然保護に対する市民の声
- ☆ 今後の森林の在り方・利用方法
- ☆ 国有林野事業に対する要望

アンケート回答者数 82名

みやぎ・森の木フェスタ 21名

青森営林局主催・森林クラブ 61名

年代別(名)

20代	3
30代	8
40代	9
50代	22
60代	26
70代	14

<表-1> 営林署の知名度

(単位：%)

上段 平成7年度

下段 平成5年度

項目 \ 年齢	年齢					
	— 30	30— 40	40— 50	50— 60	60— 70	70才 以上
知っている	10	20	67	73	92	98
知らない	90	80	33	27	8	2
知っている	54	62	78	76	94	80
知らない	46	38	22	24	6	20

<表-2-a> 「森林に対する関心度」

(単位：%)

上段 平成7年度

下段 平成5年度

項目 \ 年齢	年齢					
	— 30	30— 40	40— 50	50— 60	60— 70	70才 以上
あ る	100	100	99	100	100	100
な い	0	0	1	0	0	0
あ る	75	94	100	97	98	100
な い	25	6		3	2	0

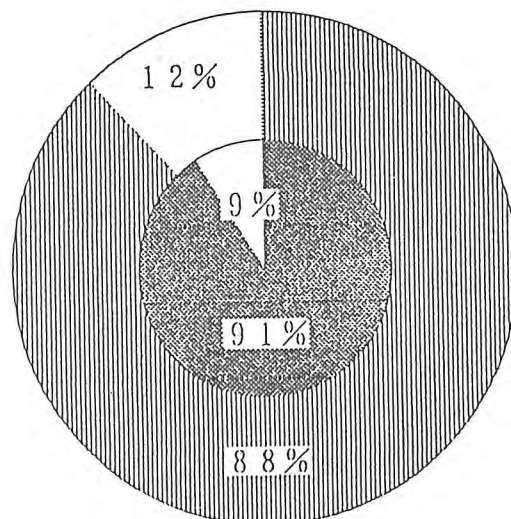
<表-2-b> 「どのようなところに興味がありますか」

☆ 景観について 50%

☆ 動植物について 32%

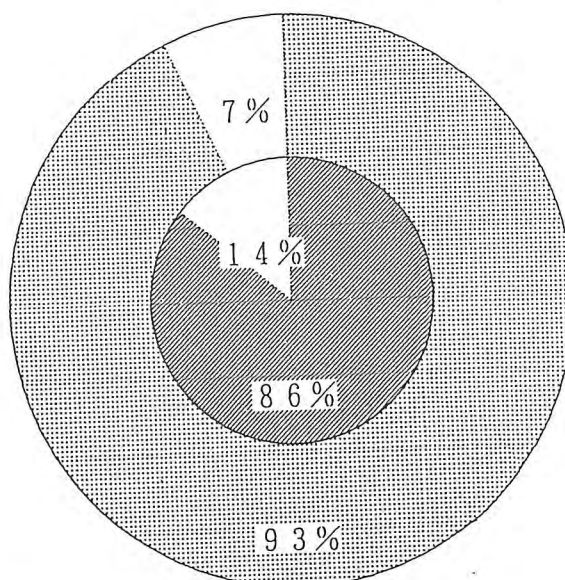
☆ レクリエーション施設について 18%

<表-3> 「仙台近郊に於ける森林の活用についてあなたならどうしますか」



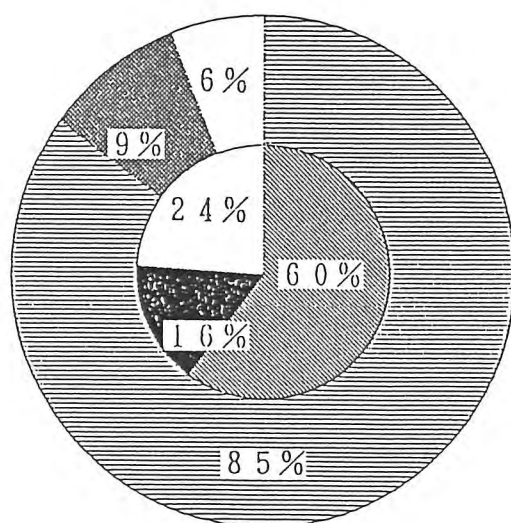
- |||| 平成5年度 森林として維持する
- 平成5年度 森林以外として維持する
- ⋯ 平成7年度 森林として維持する
- 平成7年度 森林以外として維持する

<表-4> 「森林の機能を高めるための経費の負担」に協力を惜しみませんか



- /// 平成5年度 はい
- 平成5年度 いいえ
- ⋯ 平成7年度 はい
- 平成7年度 いいえ

<表-5> あなたは「森林の伐採」についてどう思いますか



- ▨ 平成5年度 適正に行われるなら伐採してもいい
- 平成5年度 伐採すべきでない
- 平成5年度 あまり関心しない
- ≡ 平成7年度 適正に行われるなら伐採してもいい
- ▤ 平成7年度 伐採すべきでない
- 平成7年度 あまり関心しない

◇ 国 有 林 野 事 業 に 対 す る 要 望 ◇

- ◎ 国有林野事業のPR不足
- ◎ 特別会計制度をやめて
一般会計にしたらどうか
- ◎ 動植物の保護
- ◎ 収入増のための
地域開発をやめてほしい